

### 3. 多様な交通手段の活用

#### 現状

国では、「地域公共交通の『リ・デザイン』（再構築）」の柱の1つとして、「交通・他分野間の共創」を掲げており、交通を地域の暮らしと一体として捉え、様々な他分野との垣根を越えた事業連携を推進しています。

#### 交通・他分野間の共創（地域交通と、様々な他分野との垣根を越えた事業連携を実現）



図4-3-1 地域公共交通のリ・デザイン「交通・他分野間の共創」

出典：国土交通省資料

県内では、交通事業者や市町村等による路線バスやコミュニティバス、乗合タクシー、タクシーのほか、それぞれの利用目的によって運行するスクールバスや福祉有償運送、病院や商業施設の送迎サービスに加え、NPO法人等が運行する公共ライドシェア（自家用有償旅客運送）や、まちづくり協議会等の地域組織が主体となった取組など、様々な交通手段により地域の移動が支えられています。

#### 課題

交通事業者等が運行する既存の交通サービスだけでは、通勤、通学、買い物、通院、レジャーなどの移動や、観光、ビジネスといった多様なニーズに対応することが困難となっています。

市町村内においてもそれぞれの地区等によってニーズは様々であり、最適な交通手段の検討にあたっては、スクールバスや福祉車両の活用といった他分野との連携のほか、住民組織やNPO法人などの地域組織との連携についても選択肢として、幅広く検討する必要があります。

#### 現在の主な取組

市町村においては、スクールバスへの混乗の事例や、地域組織が主体的に運行する乗合タクシー等に対し、経費の一部を支援している事例があります。

県においては、地域の実情に応じて、市町村等が新たな交通サービスの導入を検討する際に専門家等を派遣する伴走支援や、実証運行等への財政支援を行っています。

国においては、地域における複数の関係者の「共創（連携・協働）」による実証運行への財政支援を行っています。

## 目指すべき姿

- 地域における多様な交通手段を活用しながら、地域住民等の様々なニーズに対応する交通サービスが提供されている。

## 今後の取組

### ■ 既存交通のサービス向上

地域住民のニーズに応じて、地域組織との協働や他分野との連携を図りながら、既存の交通サービスの最適化に取り組みます。

### ■ 地域組織との協働

地域の実情も踏まえながら、地域組織による交通手段の確保や、利用促進活動への住民団体の参加など、地域全体で交通を支える仕組みづくりを検討します。

また、従来の公共交通を補完するボランティア団体や、自治会など地域の助け合いによる輸送サービスの活用についても検討します。

### ■ 他分野との連携

スクールバスへの地域住民等の混乗、福祉有償運送との連携、病院や商業施設の送迎バスの活用など、既存の交通手段との連携について検討します。

## 期待される役割

県	<ul style="list-style-type: none"><li>● 公共ライドシェア（自家用有償旅客運送）制度の適切な運用に向けた指導・助言</li><li>● 市町村の交通サービスの最適化に向けた取組への支援</li><li>● 先進事例等の情報提供</li></ul>
市町村	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域のニーズに応じた最適な交通手段の検討</li><li>● 地域組織等との連携による交通手段の導入</li><li>● スクールバス等他分野との連携による交通手段の導入</li></ul>
国	<ul style="list-style-type: none"><li>● 制度面での必要な見直し</li><li>● 多様な交通サービスの実証・実装に向けた支援</li><li>● 先進事例等の情報提供</li></ul>
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域組織等との連携による運行</li><li>● 他分野との連携への積極的な関与</li></ul>
地域住民等	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域の交通手段確保への連携・協力</li><li>● 地域公共交通の重要性への理解及び適切な負担</li></ul>